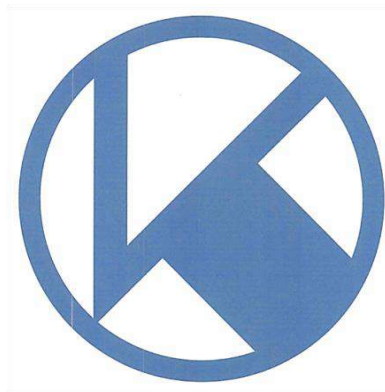


2024年度
郡山健康科学専門学校
講義概要



こども未来学科
1年生

学校法人こおりやま東都学園

こども未来学科 2024年度生 履修一覧

1年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
外国語、体育以外の科目	憲法	
	情報処理	
	ポケット・ゼミ	
外国語	英語	
体育	健康・スポーツ理論	
	健康・スポーツ実技	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	●
	教育原理	●
	子ども家庭福祉	●
	社会福祉	●
保育の対象の理解に関する科目	社会的養護 I	●
	保育の心理学	●
	子どもの理解と援助	
保育の内容・方法に関する科目	子どもの保健	●
	保育の計画と評価	
	保育内容総論 I	
	健康指導法	
	人間関係指導法	
	環境指導法	
	子どもの生活と遊び(表現と運動)	
	子どもの生活と遊び(音楽とリズム) I	●
	子どもの生活と遊び(感性と創造)	●
	子どもの生活と遊び(言葉と児童文化財)	●
乳児保育 I		
乳児保育 II		
保育実習	保育実習指導 I	●

2年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
保育の本質・目的に関する科目	子ども家庭支援論	
	保育者論	
	医療保育総論	
	多職種連携総論	
保育の対象の理解に関する科目	子ども家庭支援の心理学	
	子どもの食と栄養	●
	発達障害児の理解と対応	
保育の内容・方法に関する科目	言葉指導法	
	表現指導法	
	子どもの健康と安全	
	障害児保育	
	社会的養護 II	●
	子育て支援	
	居住環境学	
	感覚統合入門	
	在宅保育	
	保育内容演習 I	
子どもの生活と遊び(音楽とリズム) II	●	
保育内容演習 II		
入門臨床美術		
保育実習	保育実習 I	
	保育実習指導 II	
	保育実習 II	
	保育実習指導 III	
保育実習 III		
総合演習	保育実践演習	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
憲法		米谷 光正			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
日本国憲法は、人間が自由・生命などの権利を、幾多の試練を乗り越えて獲得した歴史の成果であり、医療・福祉・介護・保育を目指すために必要な科目である。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①クラスで行われるグループ・ワークでコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。②日本国憲法と明治憲法を比較することができる。③自然法が何故人間にとっての自由・生命の権利になったかをロックなどの思想家を紹介して説明できる。④基本的人権の権利を説明することができる。⑤幸福追求権をグループ・ワークで討議する。⑥生存権、平等権、表現の自由などを理解し、グループ・ワークで討議する。⑦社会の問題に憲法を適用し、解決する。				考え抜く力	
【履修上の注意】毎時間の課題レポートの作成を励行すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	コースの内容、グループワーク(GW)、講義の方法を説明する。			グループ
2	教養とは	教養について学生個人、グループワークで授業を進める。			グループ
3	自然法(1)	人間の自由のために自由法が主張され、人権の萌芽がめばえたことを理解する。			個人
4	自然法(2)	ホッブス・ロック・ルッソーについての理論を比較する。			グループ
5	憲法の基礎(1)	憲法の意義を理解し、それを歴史的に理解し、説明することができる。			個人
6	憲法の基礎(2)	日本国憲法と明治憲法を比較することができる。			個人
7	憲法の基礎(3)	憲法、法律、政令、省令、条約の関係を説明することができる。			個人
8	基本的人権の内容	基本的人権を構成する権利を理解し、グループワークで課題を討議する。			グループ
9	基本的人権の制限	基本的人権を公共の福祉による制限について、判例を検討しながら考える。			グループ
10	幸福追求権(1)	幸福追求権を理解し、その特徴をグループワークで討議する。			グループ
11	幸福追求権(2)	幸福追求権についての判例を検討して、グループワークで討議する。			グループ
12	表現の自由	表現の自由の多様な権利を把握し、判例を批評する。			グループ
13	平等権	平等権を理解し、代表的な判例を批評できるようにする。			個人
14	生存権	生存権の理論を理解し、判例の歴史的返還を習得する。			個人
15	まとめ	憲法全般についての応答を行う。			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度 筆記試験	30% 70%	
【教科書】	日本国憲法 人権と福祉(南窓社) 授業に必要な参考資料をその都度配布する。				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
健康・スポーツ理論		小松 未来			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	8(15)	講義	1
【授業の概要・目的】					
基礎教養科目として位置づけ、運動と健康の関係を科学的に捉え運動による健康の保持・増進に関わる知識を習得する。また、健康で心豊かに生きていくために必要なことは何かを理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①身近な健康について目を向け、理解を深めることで、自己の健康管理に繋げることができる。 ②自身の健康だけでなく、周りの人への健康に関する配慮について考えることができる。 ③各種保健活動について理解することができる。 ④正しい知識を身に付けた上で、行動選択ができる。				前に踏み出す力 チームで働く力 コミュニケーションスキル 知識・理解	
【履修上の注意】毎時間の課題レポートの作成を励行すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	健康のとらえ方 (教室授業)	「健康とは何か。」健康は私たちにとって、とても身近な話題である。しかし、この問いの答えは簡単ではない。健康のとらえ方についてあなたの答えを見つけていく。			個人
2	喫煙と健康について (教室授業)	喫煙は世界的な健康問題であるとして、日本をはじめ各国で様々な対策が行われている。喫煙は、なぜそれほどまでに大きな問題とされているのか学ぶ。			個人
3	飲酒と健康について (教室授業)	飲酒は、交通事故や暴力事件などの社会問題だけでなく、深刻な健康問題をもたらすことがある。飲酒は健康にどのような影響を与えるのか学ぶ。			個人
4	薬物乱用と健康について (教室授業)	世界中で薬物乱用が絶えない。なぜ、社会は薬物乱用を大きく取り上げるのか、また個人として社会として何をすべきかを考える。			個人
5	生活習慣とその予防 (教室授業)	がん・心臓病・脳卒中などの病気は、自分とは無関係だと思っている人が多くいる。しかし、あなたの生活習慣が、その原因になる可能性がある。健康的な生活習慣について考える。			個人
6	妊娠・出産と健康、家族計画と人工妊娠中絶 (教室授業)	新しい命が誕生する時、特に健康に対して注意しなければならない時期でもある。また、望まない妊娠・出産は親子にとって大きな負担となる可能性があるということを学ぶ。			個人
7	日常的な応急手当と意義 (教室授業)	怪我や熱中症の応急手当の知識を身に付けていると、日常生活で大いに役立つ。正しい方法や手順を学ぶ。			個人
8	心肺蘇生法について (教室授業)	心肺蘇生法の知識を身に付けていると、日常生活で大いに役立つ。正しい方法や手順を学ぶ。			個人
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
期末試験	ノートまとめと課題レポートを提出する。 筆記試験は行わない。	評価方法	レポート 課題の達成度	80% 20%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		日頃から規則正しい生活や食事を心がけること。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
健康・スポーツ実技		小松 未来			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
基礎教養科目として位置づけ、自己の健康保持・増進を図り生涯スポーツへと繋がる運動技能を獲得する。さらに、これまで体験して来た球技やレクリエーション種目等の技術向上を図る。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動技能を高める。 ②仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。 ③各種スポーツを仲間と共に体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。 ④将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。				前に踏み出す力 チームで働く力 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】運動着・シューズの着用と水分補給のための飲料を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	ガイダンス		1.ストレッチング運動の方法 2.活動時における取り組み方 3.器具・機材の安全管理		グループ
2	バレーボール		簡易ゲームによる個々の技能確認		グループ
3	バレーボール		実践に近い様式での集団技能の練習と習得		グループ
4	バレーボール		男女混合によるゲーム (男女の基本的技能の差異を考慮したゲームコントロール)		グループ
5	エアロビクス、ダンス ダンス		体カづくりの運動		グループ
6	バドミントン		個人技能の練習と習得		グループ
7	バドミントン		シングルの簡易ゲーム		グループ
8	バドミントン		ダブルスの簡易ゲーム		グループ
9	バスケットボール		実践に近い様式でのゲーム感覚の練習		グループ
10	バスケットボール		男女混合によるゲーム (男女の基本的技能の差異を考慮したゲームコントロール)		グループ
11	卓球		個人技能の練習と習得		グループ
12	卓球		シングルの簡易ゲーム		グループ
13	卓球		ダブルスの簡易ゲーム		グループ
14	インディカ		インディアを体験し、ニュースポーツについて学ぶ		グループ
15	ウォーキング・軽スポーツ		ウォーキングとその効果について学ぶ		グループ
期末試験	実施あり		評価方法	実技試験 60%	授業への貢献 40%
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			日頃から規則正しい生活や食事を心がけること。		
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
情報処理(1/2)		清野 晃紀			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
パソコンを用いた資料作成方法を理解して、文書、表計算、プレゼンテーションを学習し知識を身につける。					
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】
①コンピュータ、インターネットの基本知識について理解できる。 ②文書の作成入力・編集ができ、既存のデータ・写真の利用ができる。 ③表計算の基本及び編集、印刷とグラフ・データベースの操作ができる。 ④パワーポイントの基礎・編集及び特殊効果の設定ができる。 ⑤プレゼンテーション用の資料作成とスライドショーでの発表ができる。					考え抜く力
【履修上の注意】		教科書,USBを忘れずに持参すること。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	情報処理の基礎知識	オリエンテーション、コンピュータとインターネット、Windowsの基礎知識とパソコン上でofficeを利用するための基本知識を理解する。			個人
2	Wordによる文書の作成と管理	wordの基礎知識、文書の作成、文書の印刷とページ設定 wordで文章を作成し、管理するための基本となる手順・操作を身につける。			個人
3	Wordによる表の作成と文書の編集	表の作成、文書の編集・文書に挿入する表作成と文書の編集の手順・操作が理解できる。			個人
4	wordによる既存データを利用した文書の作成	表現力をアップする既存のデータや写真を文書に挿入して利用する方法が理解できる。			個人
5	wordによる長文作成	長文の目次の設定方法、及び業務で使用する文書作成の基本的ルールが理解できる。			個人
6	Excelによる表作成の基本操作	Excelの基本知識、データの入力・編集 Excelで表を作成するための基本となる手順・操作が理解できる。			個人
7	Excelによる表の編集と印刷	表の作成、表の印刷 表を見やすく、使い易くするための編集・印刷の手順・操作が理解できる。			個人
8	Excelによる集計表の作成	いろいろな数式 集計表を作成するときに用いる数式や関数について理解できる。			個人
9	Excelによるグラフの作成とデータ操作	グラフと図形、データベースの利用 グラフ作成、及びデータの並び替えと抽出の手順・操作が理解できる			個人
10	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成	PowerPointの基礎知識、プレゼンテーションの作成、プレゼンテーション資料を作成するための基本となる手順・操作が理解できる。			個人
11	PowerPointによるビジュアル表現	図表・グラフ・表の挿入と編集、特殊効果の設定、印刷関係の機能、ビジュアルな表現により質の高い基礎的な手順・操作が理解できる。			個人
12	PowerPointによる効果的なプレゼンテーション	スライドショーをサポートする機能、プレゼンテーションの基本技能、効果的なプレゼンテーションを行うための必要ポイントが理解できる。			個人
13	PowerPointによる効果的なプレゼンテーションの実際 1	自己紹介資料の作成から発表までを体験することにより、プレゼンテーション資料作成の知識を身につける。			個人
14	PowerPointによる効果的なプレゼンテーションの実際 2	PowerPointを用いたプレゼンテーションの実施と評価を通して、プレゼンテーションの基本を理解する。			個人
15	まとめ	講義のまとめと評価を行う。			個人
期末試験		評価方法	受講態度 30%	課題の達成度 70%	
【教科書】	Word2019 & Excel2019 & PowerPoint2019 (FOM出版) よくわかるMicrosoft Word2019(FOM出版) よくわかるMicrosoft Excel2019(FOM出版) 情報モラル・セキュリティ 改定4版(FOM出版)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習は意欲的に取り組みましょう。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
情報処理(2/2)		清野 晃紀			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
パソコンを用いた資料作成方法を理解して、文書、表計算、プレゼンテーションを学習し知識を身につける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①情報モラル、情報セキュリティなどのネット社会での危険と対策を理解できる。 ②図表を使って効果的に見せる、文書の作成・編集ができる。 ③差し込み印刷や文書の校閲などの応用操作が理解できる。 ④関数やグラフィックを使った表計算を作成理解ができる。 ⑤ピボットテーブルやマクロを使ってのデータ分析、操作ができる。				考え抜く力	
【履修上の注意】		教科書、USBを忘れずに持参しましょう。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	情報モラルと情報セキュリティ	オリエンテーション、個人情報などネット社会に潜む危険やトラブル回避のための情報モラルと情報セキュリティ対策について理解できる。			個人
2	Wordによる図形や図表を使った文書の作成	SmartArtグラフィックや図形等のオブジェクトを挿入し、それらのオブジェクトに効果的な書式を設定することができる。			個人
3	Wordによる写真を使った文書の作成	画像の圧縮と加工、写真の編集、図の挿入、トリミングやアート効果の設定など、画像を効果的に見せる手順・操作が理解できる。			個人
4	wordによる差し込み印刷	差し込み文書の作成、案内状や挨拶状、宛名ラベルなどExcelで作成したデータを差し込んで印刷する手順・操作が理解できる。			個人
5	wordによる長文作成の活用	長文の作成に便利な機能を理解し文書全体に統一したデザインを適用する手順・操作が理解できる。			個人
6	word文書の校閲	文書校正機能、コメントの挿入、変更履歴を使った文書校閲文書を閲覧するときに役立つ機能の手順・操作が理解できる。			個人
7	WordによるExcelデータを利用した文書作成と便利な機能	リンク貼り付け、セッション区切り、文書の保護、Excelデータとの連携や文書を管理するための便利な機能の手順・操作が理解できる。			個人
8	Excelを利用した関数の利用	関数の概要、関数の活用関数を理解し関数を使った数式を活用する手順・操作が理解できる。			個人
9	Excelを利用した表作成の活用	条件付き書式、ユーザー定義の表示形式、入力規則、コメントの挿入シートの保護など便利な機能を使いこなす手順・操作が理解できる。			個人
10	Excelを利用したグラフの活用	複合グラフの作成、補助縦棒付き円グラフの作成、スパークライン視覚的にわかりやすいグラフを作成する手順・操作が理解できる。			個人
11	Excelを利用したグラフィックの利用	SmartArtグラフィックの作成、図形の作成、テーマの設定、様々なグラフィックを利用する手順・操作が理解できる。			個人
12	Excelを利用したデータベースの活用	データの集計、表をテーブルに変換する集計、テーブル機能を使い効率よくデータを管理する手順・操作が理解できる。			個人
13	Excelを利用したピボットテーブルとピボットグラフの作成	ピボットテーブルの作成と編集、ピボットグラフの作成データを多角的に集計・分析する手順・操作が理解できる。			個人
14	Excelを利用したマクロの作成	マクロ概要、マクロの作成と実行、マクロ有効ブックとして保存作業を自動化して効率よく作業を進める手順・操作が理解できる。			個人
15	まとめ	講義のまとめを行う。			
期末試験		評価方法	受講態度 30%	課題の達成度 70%	
【教科書】	Word2019 & Excel2019 & PowerPoint2019 (FOM出版) よくわかるMicrosoft Word2019(FOM出版) よくわかるMicrosoft Excel2019(FOM出版) 情報モラル・セキュリティ 改定4版(FOM出版)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習は意欲的に取り組みましょう。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
ポケット・ゼミ(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		田母神 知加子			田母神
		保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
基本的な学習方法や社会人に必要なスキルを具体的に習得する。また、グループディスカッションを通して自分の考えを述べたり、他者の意見を聞く力を育成する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①社会人として必要な国語力を身につける ②専門学校での学ぶ意味を説明できる ③基本的な学習方法を実践する ④グループワークを通じて、コミュニケーション力を身につける ⑤保育学生としてのマナーを身につける				考え抜く力 コミュニケーション技術 生活援助技術 相談支援技術	
【履修上の注意】		必ず手帳を持参して、授業に参加すること。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	生活デザイン設計・講義の受け方	一年間の生活スケジュールを組み立てる。専門学校の講義の種類や特徴を知りノートの取り方や提出物の方法を知る。			個人
2	保育学生としてのマナー①	社会人として、また保育学生として身に付けたいマナーについて学ぶ。			個人
3	保育者を目指す学生として必要な知識①	高校と専門学校の違いを見つけて、専門学校を知る。校内探索をしながら、校内理解を深める。			個人
4	保育者を目指す学生として必要な知識②	学科の内容や取得できる資格を理解する。資格や免許について理解を深め、挑戦したい資格を明確にする。			個人
5	保育学生としてのマナー②	学内外の体験学習やボランティアに参加するうえでの、病気や感染症への事前対応やメンタルヘルスについて理解する。			グループ
6	保育者を目指す学生として必要な知識③	保育に必要な教養と国語力を習得する③			個人
7	保育学生としての言葉①	社会人として、また保育学生として身に付けたい正しい敬語の使い方など、話し言葉について学ぶ。			グループ
8	保育学生としての言葉②	保育の場や身近な人とのコミュニケーションについて学び、話し言葉のトレーニングをする。			グループ
9	子どもの五感を刺激するあそび	子どもの能力や可能性を伸ばす知育玩具の、年齢や育ちに合った楽しみ方を体験する。			グループ
10	保育学生としての言葉③	レポートの書き方と原稿用紙の使い方や、レポート・作文の構成のコツを理解する。			個人
11	保育の目標と保育現場のマネジメント	保育業界におけるマネジメントの必要性について理解する。			個人
12	保育学生としての言葉④	さまざまな文書の書き方の基本を学び、ハガキや手紙を書いてみる。			個人
13	特別講義	保育者として豊かな感性を身につける。			個人
14	定期試験の準備	試験の形式やルールを理解し、それに必要な準備や見通しを立てる。			個人
15	特別講義	保育者として豊かな感性を身につける。			個人
期末試験		評価方法	受講態度 課題の達成度	70% 30%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		本講義で立てた生活目標や学習内容を日頃から意識して生活をする。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
ポケット・ゼミ(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		田母神 知加子			田母神
		保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
基本的な学習方法や社会人に必要なスキルを具体的に習得する。また、グループディスカッションを通して自分の考えを述べたり、他者の意見を聞く力を育成する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①社会人として必要な知識を身につける ②専門学校での学ぶ意味を説明できる ③基本的な学習方法を実践する ④グループワークを通じて、コミュニケーション力を身につける ⑤保育学生としてのマナーを身につける				コミュニケーション技術 生活援助技術 相談支援技術	
【履修上の注意】 必ず手帳を持参して、授業に参加すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	生活デザインの再構成	前期から夏休みまでの生活や・目標授業態度を振り返り、後期の生活や目標を再構成する。			個人
2	学びの振り返り	科目ごとに前期の学習を振り返り、何を学びどれだけ理解しているか再確認して後期の学習の対策を考える。			個人
3	特別講義	自分の強みと弱みを分析し、自分に合った就職先を見つける。			個人
4	作文・小論文の作成	作文と小論文の違いを理解し、作成する。			個人
5	特別講義	保育士として豊かな感性を身につける。			個人
6	アサーティブコミュニケーションとチーム力	アサーティブコミュニケーション力を高める意識をしながら、チームでプレゼンテーションを行う。			グループ
7	個人調書・履歴書の書き方	個人調書や履歴書の記入上の留意点を理解する。			個人
8	実習日誌の書き方①	実習日誌の意味と書き方について理解する①			グループ
9	実習日誌の書き方①	実習日誌の意味と書き方について理解する②			個人
10	電子メール・オンラインによる授業や面接のマナー	社会人としてのメールのマナーを理解する。			個人
11	保育現場におけるマナー①	実習事前オリエンテーションまでの準備・心構えを学ぶ。			個人
12	保育現場におけるマナー②	保育の現場で気を付けたい所作を確認する。			個人
13	保育現場におけるマナー③	物の借り方・取扱い方・返し方や掃除の仕方について考える。			個人
14	個人証書の書き方・自己紹介の方法	保育所実習において必要な書類を準備する。自己理解を深め、自己紹介文を考え発表する。			個人
15	定期試験の準備	各試験の形式を振り返り、試験の準備に必要なことを確認する。			グループ
期末試験	振り返りレポート	評価方法	受講態度 課題の達成度	70% 30%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 本講義で立てた生活目標や学習内容を日頃から意識して生活をする。					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
英語(1/2)		ロバート・ホルト			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
This is a course to prepare students to communicate with and teach in English to children in a classroom setting.					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①To use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students) ②To have experience of English in a number of formats (reading, listening, music etc) ③To be expected to communicate in English and sing songs.				前に踏み出す力 発達援助技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】教科書・辞書を忘れずに準備すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	Saying Hello and Goodbye	Saying hello/goodbye and other forms. Introduction to classroom language.			個人
2	"Story Time"	Common classroom events, i.e.story time, and classroom language.			個人
3	The months and seasons	Days, months and seasons and being comfortable in their use and spelling.			個人
4	Numbers	Counting, simple arithmetic use, and an introduction to ordinal numbers. Singular and plural nouns, a/an, plurals.			個人
5	Arts and Crafts	Arts and crafts, focusing on activity names and colours/materials used.			個人
6	"Potty Time"	Classroom language for toilet time, washing and other "accidents".			個人
7	"Play Time" / Mini-Test	Recap of weeks 1-6, with a focus on using the language quickly and accurately. Mini-Test (15%).			個人
8	"What's The Time?"	Telling the time and review of numbers.			個人
9	"How do you feel today?"	A focus on emotions and feelings.			個人
10	"Dinner Time"	Grammar introduction to using if / until / after / before. Review of days / months. Songs - If you're happy and you know it.			個人
11	"Bed Time"	Language used for "bed time" and sleep related clothing/materials.			個人
12	Family	Introducing family names. He and She focus.			個人
13	Songs	Songs that are commonly sung in a classroom.			個人
14	What is he/she doing?	Grammar introduction - present continuous; to use "I am verb-ing" accurately.			個人
15	Future Plans	Grammar introduction - using "going to" to describe future plans.			個人
期末試験	Examination	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト	10%
【教科書】	Test of English for Early Childhood Educators - Course Book 4点(株式会社 ブックフォレ)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		課題が出たときは忘れずにやりましょう。ミニテストに向けて自主的に勉強しましょう。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
英語(2/2)		ロバート・ホルト			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
This is a course to prepare students to communicate with and teach in English to children in a classroom setting.					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①To use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students) ②To have experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) ③To be expected to communicate in English and sing songs.				前に踏み出す力 発達援助技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】教科書・辞書を忘れずに準備すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	Singular and plural nouns	Grammar introduction to count/non-count nouns. Using "there is a pen", "there are some pens" etc.			個人
2	How much/How many?	How much and How many questions.			個人
3	Present Simple.	Using present simple and changing verb forms with I/We/you/They and He/She/It.			個人
4	Past Simple. What did you /he/she do?	Using present simple and changing verb forms with I/We/you/They and He/She/It.			個人
5	Ability and possibility	Grammar introduction to can/can`t/be able to,etc			個人
6	What do you like?	Talking about likes/dislikes.			個人
7	Fun and Games	Review lesson focusing on using the language coverd in weeks 1-6 using games and activities.			個人
8	Going to the zoo/Mini-Test.	Animal names for zoo or farm animals. Playing games and spelling activities. Mini-Test (15%).			個人
9	Who/What/Which?	Grammar introduction to question words and question format.			個人
10	Grammar-Conditions	Grammar introduction to using if / until / after / before. Review of days / months. Songs - If you're happy and you know it.			個人
11	Classroom language.	Classroom language using "colouring time" as the focus.			個人
12	Adverbs of Frequency.	Grammer introduction to adverbs of frequency.			個人
13	Christmas And The Holidays.	A Christmas focused lesson;games and party time language.			個人
14	Obigations.	Grammar introduction to must / may / should / shall etc.			個人
15	Places and Jobs.	Places around town and the countryside. Common job names.			個人
期末試験	Examination	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト	10%
【教科書】	Test of English for Early Childhood Educators - Course Book 4点(株式会社 ブックフォレ)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】課題が出たときは忘れずにやりましょう。ミニテストに向けて自主的に勉強しましょう。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育原理 ※実務経験のある教員の授業科目		小坂 徹			小坂
		知的障害児入所施設(児童指導員)11年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
保育の意義と目的を理解し、乳幼児期の保育の基本についての理解を具体的に深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育の意義と目的、内容と方法を理解する。 ②保育の法制度について理解する。 ③保育所保育指針に基づく保育の内容と方法を理解する。 ④保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ⑤保育の現状と課題について理解する。				考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術	
【履修上の注意】		予習課題の励行と事前提出			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	講義概要と学習目標について理解する。成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。			個人
2	保育の意義と目的Ⅰ	乳幼児保育の役割と機能について理解する。			個人
3	保育の意義と目的Ⅱ	乳幼児保育の現状と課題について理解する。			個人
4	保育の法制度Ⅰ	子ども家庭福祉の法体系と保育の位置づけについて理解する。			個人
5	保育の法制度Ⅱ	子ども・子育て支援制度について理解する。			個人
6	保育の法制度Ⅲ	保育の実施体系について理解する。			個人
7	乳幼児期の保育の基本Ⅰ	環境による保育、養護と教育が一体になった保育について理解する。			個人
8	乳幼児期の保育の基本Ⅱ	乳幼児保育の構造と内容の基本構造について理解する。			個人
9	保育の重要性と独自性	権利主体としての乳幼児、子ども家庭福祉と乳幼児ほいくについて理解する。			個人
10	保育の内容と方法Ⅰ	保育所保育指針に基づく保育に理解する。			個人
11	保育の内容と方法Ⅱ	乳幼児の発達を踏まえた保育について具体的に理解する。			個人
12	保育の方法と内容Ⅲ	保育の具体的な展開を行うための配慮点について理解する。			個人
13	保育の内容と方法Ⅳ	個と集団の育ちと保育士の関わりについて理解する。			個人
14	保育の歴史	諸外国と日本における保育の思想と歴史を知り、現代の保育とのつながりを理解する。			個人
15	保育の現状と課題	諸外国と日本の保育の現状と課題について学ぶ。			個人
期末試験	原則として実施しない。	評価方法	課題の達成度 60% 受講態度 10%	授業への貢献 レポート	10% 20%
【教科書】	最新保育士養成講座第1巻「保育原理—保育原理／乳児保育」(全国社会福祉協議会)				
【参考書】	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		次回講義分の予習課題の達成と事前提出			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
教育原理		鈴木 佳代子			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。また、教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な考え方を理解する。教育制度や様々な取り組みについて理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①教育の意義、目的及び家庭福祉等との関わりを理解できる。 ②教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論を理解できる。 ③教育の制度を理解できる。 ④教育実践の様々な取り組みを理解できる。 ⑤生涯学習社会における教育の現状と課題を理解できる。				前に踏み出す力 考え抜く力 発達援助技術	
【履修上の注意】 毎回配布する資料を基に講義の振り返りを行うので、ノートは必ず毎回持参してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性 1		教育の意義を理解する。		個人
2	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性 2		教育の目的を理解する。		個人
3	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性 3		乳幼児期の教育の特性を理解する。		個人
4	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性 4		教育と子ども家庭福祉の関連性を理解する。		個人
5	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性 5		人間形成と家庭・地域・社会との関連性を理解する。		個人
6	教育の思想と歴史的変遷 1		諸外国の教育の思想と歴史を理解する。		個人
7	教育の思想と歴史的変遷 2		日本の教育の思想と歴史を理解する。		個人
8	教育の思想と歴史的変遷 3		子ども観と教育観の変遷を理解する。		個人
9	教育制度の基礎 1		教育制度の基礎を理解する。		個人
10	教育制度の基礎 2		教育法規・教育行政の基礎を理解する。		個人
11	教育制度の基礎 3		諸外国の教育制度を理解する。		個人
12	教育の実践 1		教育実践の理論(内容・方法・計画と評価)を理解する。		個人
13	教育の実践 2		教育実践の多様な取り組みを理解する。		個人
14	生涯学習社会における教育の現状と課題 1		生涯学習と教育を理解する。		個人
15	生涯学習社会における教育の現状と課題 2		現代の教育課題を理解する。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 40% 小テスト 20%	レポート 20% 授業への貢献 20%
【教科書】	最新保育士講座第2巻 教育原理(全国社会福祉協議会)				
【参考書】	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 教科書の一読予習と、ノート整理などの復習					
【本講義に関しての質問先】 担当教員			【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
社会福祉		佐藤 篤			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
社会福祉の基礎的理解を目的とし、社会福祉の考え方・法制度・技術・歴史等の理解を深める。ソーシャルワーク演習も実施する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①社会福祉の基礎的理解を深めることができる。 ②社会福祉専門職としての自律性を体得する。 ③自らの行動指針を確立させることができる。				前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】毎回の講義の終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってこよう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	社会福祉とは何か理解する。 講義についての主旨説明			個人
2	社会福祉の思想・理念	現代社会について 社会福祉の考え方について考える。			個人
3	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史について理解する。 社会生活の変遷を辿る。			個人
4	社会福祉の法律・制度	社会福祉基礎構造改革について 社会福祉制度改革の流れと現行制度の特長について理解する。			個人
5	社会福祉法について	社会福祉法について 社会福祉法の特徴について理解する。			個人
6	介護保険法について	介護保険法について 介護保険法の特徴について理解する。			個人
7	生活保護について	生活保護制度について 生活保護制度の特徴について理解する。			個人
8	年金制度と雇用について	年金制度と雇用について 高齢・障がいのある方の年金制度の理解と雇用の意味について理解する。			個人
9	人権保障に関する制度	日常生活自立支援事業と成年後見制度について 日常生活自立支援事業と成年後見制度の概要について理解する。			個人
10	ソーシャルワーク①	ソーシャルワークとは 自己覚知・受容と福祉の対象について理解する。			個人
11	ソーシャルワーク②	ソーシャルワークとは ケースワーク・グループワークの基礎について理解する。			個人・グループ
12	受容と共感	個性と多様性について 自身の個性を知る。			個人
13	専門対人援助関係の形成	専門職業的自分、私的自分 プロとアマチュアとは何か考える。			個人
14	地域福祉	地域福祉をキーワードに福祉の方向性について考える。 振り返りを行い、考えをまとめる。			個人
15	まとめ	講義のまとめを行う。			
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	20% 60%	レポート 20%
【教科書】	最新保育士養成講座第4巻 社会福祉(改訂2版)【全国社会福祉協議会】				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習は意識的に取り組みましょう。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子ども家庭福祉		佐藤 篤			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
子どもを取り巻く環境の現状と課題、より複雑化している現象等を取り上げ、これからの子ども家庭福祉の方向性について考察する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①子ども家庭福祉の「理念」を理解することができる。 ②子ども家庭福祉の「社会的諸サービス」を理解することができる。 ③子ども家庭福祉の「関連専門職」を理解することができる。				前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】毎回の講義の終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってこよう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	子ども家庭福祉とは何か理解する。 講義についての主旨説明			個人
2	子どもを取り巻く環境	家庭環境の変容やそれに伴う子どもへの影響 機能不全家族について理解する。			個人
3	子ども家庭福祉の理念	子ども家庭福祉関連法について理解する。 児童福祉法から各関連法について			個人
4	子ども家庭福祉の歴史①	子ども家庭福祉の成り立ち、戦前の子ども家庭福祉 歴史的背景を理解する。			個人
5	子ども家庭福祉の歴史②	戦後の子ども家庭福祉 歴史的背景を理解する。			個人
6	子ども家庭福祉の実施体制①	子ども家庭福祉に関連する各種機関について理解する。 児童相談所、福祉事務所等社会サービスについて			個人
7	子ども家庭福祉の実施体制②	子ども家庭福祉に関連する各種機関について理解する。 児童相談所、福祉事務所等社会サービスについて			個人
8	児童の権利に関する条約	子どもの権利について理解する。 条約等、子どもの権利を保障するものとは			個人
9	障害児福祉	障害児への福祉について理解する。 障害児のための福祉施策・サービスとは			個人
10	子ども家庭福祉の諸問題①	児童虐待と対策、関連法について 被虐待児、虐待者について考察する。			個人
11	子ども家庭福祉の諸問題②	非行児童、障害児のための福祉サービス 少年法、育児・介護休業法等について理解する。			個人
12	子ども家庭福祉の諸問題③	ひとり親家庭のための福祉サービスについて理解する。 母子及び父子並びに寡婦福祉法について理解する。			個人
13	子ども家庭福祉の財政状況	子ども家庭福祉を支える財源について理解する。 国、地方公共団体それぞれの役割とは			個人
14	子ども家庭福祉の専門職	子ども家庭福祉専門職、行政機関の専門職 関連分野の連携と調整について理解する。			個人
15	まとめ	講義のまとめを行う。			
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	20% 60%	レポート 20%
【教科書】	最新保育士養成講座第3巻 子ども家庭福祉 【全国社会福祉協議会】				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習は意識的に取り組みましょう。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
社会的養護 I		緑川 浩子			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】 社会的養護の対象となる子どもや各関係機関、家庭や周囲の環境に目を向け、どのような福祉ニーズがあるのかを理解する。					
【学習目標(到達目標)】 ①社会的養護の基礎的理解を深めることができる。 ②保育専門職としての役割を理解する。 ③様々な支援・援助方法について理解する。				【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】毎回の講義の終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってこよう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	社会的養護とは何か 講義についての趣旨説明を理解する。			個人
2	社会的養護の定義	社会的養護の定義の歴史の変遷 社会的養護の基本的方向性を理解する。			個人
3	社会的養護の歴史	日本における歴史について理解する。 西洋における歴史について理解する。			個人
4	児童の権利擁護	児童の権利に関する条約とは何か 「子ども」に対するとらえ方について理解する。			個人
5	社会的養護の基本原則	個別化の原則について理解する 集団の活用の原則について理解する。			個人
6	保育士の倫理と責務	専門職の倫理 全国保育士会倫理綱領について理解する。			個人
7	社会的養護の法制度	子どもに関連する法律や制度 その他の関連法について理解する。			個人
8	社会的養護の実施体系	児童福祉の実施期間 児童福祉施設とは何かを理解する。			個人
9	社会的養護の対象	対象となる児童・家庭の現状 対象者への支援方法について理解する。			個人
10	家庭養護と施設養護	家庭養護における問題と今後の課題について考察する。 施設養護における問題と今後の課題について考察する。			個人
11	社会的養護に関する社会的状況	社会的養護の地域化について理解する。 児童虐待への対応			個人
12	児童福祉施設の運営管理	社会福祉事業 契約制度と措置制度を理解する。			個人
13	被措置児童等の虐待防止	被措置児童等の定義と現状 被措置児童間の不適切なかかわりを理解する。			個人
14	社会的養護と地域福祉	地域福祉とは 社会的養護の役割と地域とのかかわりを理解する。			個人
15	まとめ	講義のまとめを行う。			
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	20% 60%	レポート 20%
【教科書】	新・基本保育シリーズ 社会的養護 I(中央法規)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習は意識的に取り組みましょう。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育の心理学		佐藤 明宏			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもの理解を深めるとともに、乳幼児期の子どもの学びの過程や特性についての基礎知識を習得することで、保育者としての資質を涵養する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ②生涯発達心理学の観点から乳幼児期の発達と次の発達段階への視点を理解する。 ③子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ④子どもの学びの過程や特性から保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。				前に踏み出す力 考え抜く力 発達援助技術	
【履修上の注意】教科書・参考書は忘れずに持参すること。学習内容をよく考えること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション		講義概要と学習目標について理解する。成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。		個人
2	子どもの発達や学習を理解することの意義		子どもの発達や学習を理解することが保育者としての日々の活動の基礎となることを理解する。		個人
3	子どもの発達や学習と環境		子どもの発達に影響する環境要因について主要な理論を通して学ぶ。		個人
4	子ども観・発達観・保育観		昨今の子ども観、発達観、保育観を学び、保育者としての自己理解を促進する。		個人
5	子ども理解と保育所保育		保育所保育指針を通して子どもを理解することの重要さと保育の在り方を理解する。		個人
6	共感的理解と関わり		カウンセリング理論の基礎から子どもや保護者との関わりと支援について学ぶ。		個人
7	社会情動的発達①愛着理論		愛着についての各種理論を通して人間関係の基礎や社会性の獲得について理解する。		個人
8	社会情動的発達②自己と情動		乳幼児期の自我の獲得と自己の理解過程、情動の発達と分化過程を理解する。		個人
9	身体機能と運動機能の発達		受精からの身体発達と神経系の発達に伴う運動機能の発達について学ぶ。		個人
10	認知機能の発達		認知に関する基礎を学び、子どもの認知の発達と時期ごとの特徴について理解する。		個人
11	言語の発達		言語能力の発達とコミュニケーション能力、思考や文字の獲得など言語面の発達を学ぶ。		個人
12	乳幼児期の学びに関わる理論		学びについての各種理論をもとに乳幼児期の学びを様々な角度から比較検討する。		個人
13	学びの過程と特性(人間関係)		乳幼児期における人間関係の発達と時期ごとの特徴を学び、保育場面での適切な関わり方を理解する。		個人
14	学びの過程と特性(環境)		保育場面における年齢別の事例から保育環境における子どもの学びを最大限に引き出す方法を考える。		個人
15	乳幼児期の学びを支える保育		保育現場において子どもの学びを保障し、自ら学ぶ力を引き出す環境構成や援助の仕方を理解する。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 60% 受講態度 20%	レポート 20%
【教科書】	最新 保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助(全社協)				
【参考書】	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型こども園教育・保育要領(チャイルド本社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書・参考書を用いての予習復習。レポート課題の提出。					
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子どもの理解と援助 ※実務経験のある教員の授業科目		小坂 徹			小坂
		知的障害児入所施設(児童指導員)11年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
子どもの発達や学びに関する心理学の知見を保育現場で実践できるよう、保育者としての活用や具体的な援助行動を学ぶことで子どもについてさらなる理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ②子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 ③子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 ④子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。				考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術	
【履修上の注意】教科書・参考書は忘れずに持参すること。学習内容をよく考えること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	子どもの生活や遊び	乳児期の生活習慣の獲得と遊びについて学び、保育者の関わりや援助について実践的に考える。			個人
2	保育の人的環境としての保育者	保育者は子どもを取り巻く環境の構成要素としてその理想的な在り方を学ぶ。			個人
3	子ども相互の関わりと関係づくり	子どもと子どもの関わりについて、そのきっかけや継続性をもたらす際の保育者の役割を学ぶ。			個人
4	集団における経験と育ち	保育現場で生じる集団について、発達段階別の特性や活動における性質の違いを学ぶ。			個人
5	葛藤やつまずき	仲間との生活を通して経験する葛藤やつまずき等による影響を理解し、自我の発達を促す関わりを学ぶ。			個人
6	保育の環境の理解と構成	保育者は自らもその構成要素として子どもに適した環境を整えるべく、その構成を学ぶ。			個人
7	環境の変化や移行	家庭から保育の場への移行、生活の中の場面の切り替え、その経験と日々の適応を促す援助について学ぶ。			個人
8	観察・記録・省察・評価	子どもを理解するための視点から日々の観察、記録、省察と評価の活用を学ぶ。			個人
9	職員間の協働と情報共有	より良い保育実践へ向けて職員同士の協働、多職種連携と情報共有の重要性を学ぶ。			個人
10	保護者との情報共有	保育現場と家庭が共有すべき情報とその共有方法について学ぶ。			個人
11	生活・生育環境とその影響	子どもを取り巻く環境の昨今の変化とその影響、この先の変化への対応を学ぶ。			個人
12	子どもの健康に関わる問題	乳幼児期に明らかになる各種障害について、その特徴と支援について学ぶ。			個人
13	発達の課題に応じた援助と関わり	発達課題についての理論を基に、段階別の課題に応じた援助と関わりについて学ぶ。			個人
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	子ども一人一人のニーズについての理解と個別の配慮・支援方法、法制度について学ぶ。			個人
15	発達の連続性と就学への支援	就学へ向けて先を見通した保育の実践と幼保小連携、保護者支援について学ぶ。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度 60%	受講態度 20%	レポート 20%
【教科書】	最新 保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助(全社協)				
【参考書】	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書・参考書を用いての予習復習。レポート課題の提出。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子どもの保健		高萩 和子			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、疾病とその予防法について理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、説明できる。 ②子どもの身体的な発育・発達と保健について説明できる。 ③子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる。 ④子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協同の下での適切な対応について理解し説明できる。				発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 相談支援技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】履修したことを振り返りながら、次回の講義内容を通読してくること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	子どもの心身の健康と保健の意義	保健活動の意義と目的、健康概念と健康指標について理解する。			個人
2	子どもの心身の健康と保健の意義	現代社会における子どもの健康に関する現状課題、地域における保健活動と子どもの虐待防止について理解する。			個人
3	子どもの身体発育・発達と保健	身体発育と保健についての知識を身につける。			個人
4	子どもの身体発育・発達と保健	運動機能の発達と保健について理解する。			個人
5	子どもの身体発育・発達と保健	生理機能発達と保健について理解する。			個人
6	子どもの心身の健康状態とその把握	健康状態の観察、心身の不調などの早期発見について(体温、脈拍数、呼吸数のはかり方)の知識を身につける。			グループ
7	子どもの心身の健康状態とその把握	発育・発達の把握と健康診断、保護者との情報共有について(身体測定、発育評価方法)の知識を身につける。			グループ
8	子どもの疾病の予防および適切な対応	感染症について理解する。			個人
9	子どもの疾病の予防および適切な対応	アレルギー性疾患について理解する。			個人
10	子どもの疾病の予防および適切な対応	口と歯の健康、先天性疾患について理解する。			個人
11	子どもの疾病の予防および適切な対応	循環器、呼吸器、消化器疾患について理解する。			個人
12	子どもの疾病の予防および適切な対応	脳、神経、目、鼻、耳、運動器、皮膚の病気について理解する。			個人
13	子どもの疾病の予防および適切な対応	泌尿器、内分泌、血液、こころの病気について理解する。			個人
14	子どものこころとからだのこと	「虐待」—この現代的問題に立ち向かう 脳から見た「健やかな育ち」について理解する。			個人
15	まとめ	前期学習のまとめを行う。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度	100%	
【教科書】	子どもの保健(学建書院)				
【参考書】	子どもの保健演習ノート 改定第3版(診断と治療社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		現在、マスメディア等で子どもの健康についてどのようなことが話題になっているか関心を示す。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育の計画と評価 ※実務経験のある教員の授業科目		1) 渡邊佐江子・田母神知加子			渡邊
		1) 保育園(保育士)16年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
保育の内容の質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。また、全体的な計画と指導計画について、その意義と方法を理解する。子どもの理解に基づく保育の過程について、その全体構造を捉え、理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 ②全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ③子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体の構造をとらえ理解する。				考え抜く力 発達援助技術 遊びの展開技術	
【履修上の注意】 保育所保育指針及び保育所保育指針解説書を熟読すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション 渡邊・田母神		講義内容や履修上の注意点を理解する。		個人
2	保育の計画と評価 基本1 渡邊		カリキュラムの基礎理論を理解する。		個人
3	保育の計画と評価 基本2 渡邊		保育における計画と評価の意義を理解する。		個人
4	保育の計画と評価 基本3 渡邊		子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の循環による保育の質の向上を理解する。		個人
5	保育所における保育の計画1 渡邊		保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景を理解する。		個人
6	保育所における保育の計画2 渡邊		保育所保育指針における保育の目標と計画の基本的考え方を理解する。		個人
7	保育所における保育の計画3 渡邊		全体的な計画と指導計画の関係性を理解する。		個人
8	保育所における保育の計画4 渡邊		全体的な計画を理解する。		個人
9	保育の計画と評価1 渡邊		指導計画(長期的・短期的)の作成を理解する。		個人
10	保育の計画と評価2 田母神		指導計画作成上の留意事項を理解する。		個人
11	保育の計画と評価3 田母神		計画に基づく保育の柔軟な展開を理解する。		個人
12	保育所における保育の評価1 田母神		保育の記録及び省察を理解する。		個人
13	保育所における保育の評価2 渡邊		保育士及び保育所の自己評価を理解する。		個人
14	保育所における保育の評価3 渡邊		保育の質向上に向けた改善の取組を理解する。		個人
15	保育所における保育の評価4 渡邊		生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録を理解する。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 60% 小テスト 20%	受講態度 20%
【教科書】	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【参考書】	学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 教科書の予習の一読とノート整理での復習					
【本講義に関しての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育内容総論 I ※実務経験のある教員の授業科目		勝見 恵子			勝見
		保育園(保育士)18年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)9年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
保育所保育指針「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」と「保育内容」の関連性を理解する。また、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、実践に即した保育の過程につなげて理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育所保育指針第1章「総則」と第2章「保育の内容」の関連を理解できる。 ②保育所保育指針を基に、保育の全体的な構造を理解できる。 ③子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解できる。 ④保育の多様な展開について具体的に理解できる。				考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術 遊びの展開技術	
【履修上の注意】 毎回資料をお渡しいたしますのでファイルを用意し、授業には必ず持参してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション		講義概要や学習目標を理解する。		個人
2	保育の全体構造と保育内容 1		保育所保育指針に基づく保育の全体構造について理解する。		個人
3	保育の全体構造と保育内容 2		保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する。(養護)		個人
4	保育の全体構造と保育内容 3		保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する。(教育)		個人
5	保育の全体構造と保育内容 4		保育内容の歴史の変遷とその社会的背景について理解する。		グループ
6	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 1		子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方を理解する。		グループ
7	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 2		養護及び教育が一体的に展開する保育を理解する。		グループ
8	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 3		子どもの主体性を尊重する保育を理解する。		グループ
9	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 4		環境を通して行う保育を理解する。		グループ
10	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 5		生活や遊びによる総合的な保育を理解する。		グループ
11	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 6		個と集団の発達を踏まえた保育を理解する。		グループ
12	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 7		家庭や地域、小学校との連携を踏まえた保育を理解する。		グループ
13	保育の多様な展開 1		長時間の保育(子育て支援について)を理解する。		グループ
14	保育の多様な展開 2		特別な配慮を要する子どもの保育を理解する。		グループ
15	保育の多様な展開 3		多文化共生の保育を理解する。		グループ
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 60% 課題の達成度 20%	受講態度 20%
【教科書】		幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館) フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画(萌林書林)			
【参考書】		保育内容総論 I (中央法規) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館)			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 事前学習の提示について保育所保育指針やネット等で調べて授業に臨む。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
健康指導法 ※実務経験のある教員の授業科目		1) 矢吹 ヒロ子 ・ 鈴木 佳代子			矢吹
		1) 保育園(保育士)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
保育の内容・方法に関する科目として位置づけ、保育の基本をどう考えれば良いのか、生きる力の基礎となる豊かな体験をどのようにして保育に取り入れていくのかを理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①子ども達の生きる力の基礎を培うには、どのような内容や方法があるのかを理解する。 ②子ども達の心と体の健康を保つためには、どのような園・所生活にしていくべきかを考える。 ③保育環境や具体的な援助の大切さは何かを主体的に考える力を身に付けることができる。				考え抜く力 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】 予習復習してから授業に望みましょう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション 領域「健康」の理解		幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育を参照に領域「健康」について理解する。		個人
2	乳幼児の心身の発育発達①		保育の意義と健康観、子どもを理解(みる、みきわめる、関わる)する。		個人
3	乳幼児の心身の発育発達②		幼児期の形態的発達と機能的発達、発育・発達過程に応じた保育、保育課程編成の基本を理解する。		個人
4	子どものこころの健康		こころの発達とストレスのサイン、子どもの健康と虐待の現状を理解する。		個人
5	基本的な生活習慣の獲得		幼児の生活スタイルの現状と問題点、食育と健康の関わりを理解する。		個人
6	子どもの遊びの発達と健康		幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割、幼児の遊びを引き出す環境づくり。		個人
7	安全管理と安全教育		交通安全指導、避難訓練、ケガや病気などの体調異変に対する処置法(対処法)を理解する。		個人
8	健康と自然環境		園外保育の活動内容、園外保育の留意点。		個人
9	大人とのかかわりの実践		乳児が楽しく遊ぶ為に、乳児の成長に寄り添う保育者とのかかわり、大人とのかかわりの指導法を考える。		個人
10	身体とのかかわりの実践		安心、安全な生活の中で形成される生活リズム、「自分で」という思いを大切に保育者のかかわりの指導法を考える。		個人
11	基本的な生活習慣を身につける実践		基本的な生活習慣を身につける指導法について理解を深める。		グループ
12	生活習慣指導の教材作りと指導の留意点①		視覚的に子どもに楽しく伝える教材を調べ作成する。		個人
13	生活習慣指導の教材作りと指導の留意点②		視覚的に子どもに楽しく伝える教材を調べ作成する。		個人
14	生活習慣指導の教材作りと指導の留意点③		教材を通して基本的な生活習慣に興味関心をもつことができるよう指導計画案を作成し、発表する。		個人
15	食べることを楽しむ関わりの実践		食べる事を楽しむ事を理解し、生活や遊びを通して食への興味、関心がもてるような保育士のかかわりを学習する。		グループ
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 60% 課題の達成度 20%	受講態度 20%
【教科書】	実践例から学びを深める保育内容 領域「健康指導法」(わかば社) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【参考書】	講義内で必要な資料を配布します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		保育所保育指針・幼稚園教育要領、認定こども園保育指針の「健康」のねらい、内容の取り扱いを理解しましょう。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
人間関係指導法 ※実務経験のある教員の授業科目		1) 勝見 恵子・鈴木 佳代子			勝見
		1) 保育園(保育士)18年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)9年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
子どもの理解を深め、他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て、人と関わる力を養うための援助を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 領域「人間関係」のねらい、内容について理解し、説明することができる。 ② 乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる問題について理解することができる。 ③ 子どもの生活や遊びに対して保育内容や援助について学び、保育実践に活用することができる。 ④ 事例を通して保育者の援助について理解することができる。				発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】グループワークが多くなりますので、自分の考えを言えるようにしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション 領域「人間関係」とは	領域「人間関係」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解する。			個人
2	保育の基本と人との関わり	人との関わりの基礎を育てる保育者の役割について、また基本的な信頼感と人的環境について理解する。			個人
3	乳幼児期における人との関わりの発達 保育者の役割と援助①	乳幼児期の発達と人間関係について理解する。 遊びの中で育つ人との関わりについて理解する。			グループ
4	10の姿に育っていく過程 保育者の役割と援助②	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に育っていく過程と保育者の役割や援助について理解する。			グループ
5	人との関わりを育てる保育の実践 保育者の役割と援助③	人と関われない子どもたちや人と関わる力が育っていくプロセスや、援助者としての保育者の姿を理解する。			グループ
6	人との関わりを育てる保育の実践 保育者の役割と援助④	人との関わりが難しい子どもの支援について、またさまざまな連携について理解する。			グループ
7	人との関わりの難しい子どもへの支援 保育者の役割と援助⑤	地域の人々との多様な関わりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画の立案と実践について理解する。			グループ
8	地域の人々や小学校との交流を導く 保育計画	養育者・保育者・地域の人々など、子どもを取り巻く人的環境における関係性について理解する。			グループ
9	遊びの中で育つ「人間関係」	自我の発達を考え、子どもの自己主張、自己発揮について理解する。			グループ
10	遊びの中で育つ「人間関係」	いざこざやトラブルを通して、子どもが成長していく姿や保育者の援助について理解する。			グループ
11	遊びの中で育つ「人間関係」	幼児期に育てたい道徳性・規範意識の芽生えについて理解する。			グループ
12	遊びの中で育つ「人間関係」	個の育ちと集団の育ちを踏まえ、協同性を育む保育者の役割を理解する。			グループ
13	「人間関係」を育てる保育	人間関係を育む遊びを考え、指導案作成し模擬保育を行う。			グループ
14	「人間関係」を育てる保育	子どもが育ちあう集団を形成するための保育者の姿勢について理解する。			グループ
15	子どもを取り巻く「人間関係」	家庭・地域など子どもを取り巻く人間関係と子どもの育ちとの関係や社会との連携と保育者の役割について理解する。			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 課題の達成度 20%	受講態度 20%	
【教科書】	対話的・深い学びの保育内容「人間関係」(萌文書林) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【参考書】	体験する・調べる・考える領域「人間関係」(萌文書林)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】体験学習などで出会った子どもや保育者をしっかり観察すること。					
【本講義についての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
環境指導法 ※実務経験のある教員の授業科目		1) 田母神 知加子・鈴木佳代子			田母神
		1) 保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
<p>養護と教育にかかわる保育の内容を総合的に理解しつつ、子どもの発達を、主に環境の領域の観点から捉え、周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う発達の援助について具体的に理解する。</p>					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
<p>①子どもの発達を環境の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に理解する。 ②子どもが好奇心や探求心をもってかかわりたくなる環境をどのようにつくるか理解する。 ③子どもが環境とかかわり、生活に取り入れていこうとする力をどのように養うか理解する。 ④幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて保育を構想し、具体的な指導ができる。</p>				<p>発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術</p>	
【履修上の注意】		予習復習をしてから、授業に臨みましょう。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	幼稚園教育の基本と5領域および各領域の特色、ねらいと内容の理解	講義内容や学習目標を理解し、履修上の注意点を確認する。			個人
2	幼児期の特性や発達を踏まえた保育	幼稚園要領の基本と5領域および各領域の特色、ねらいと内容を理解する。			個人
3	教材や情報機器の活用	環境の「ねらい」・「内容」について理解する。			個人
4	領域「環境」に関わる保育の指導計画	園庭・近隣の動植物やその他の自然現象・事物、または器材や絵本・情報機器の活用について理解する。			個人
5	領域「環境」に関わる保育の指導計画	領域「環境」のねらいを達成する保育実践の4原則や指導計画(日案)について学ぶ。			グループ
6	模擬保育と評価改善	作成した指導案を用いた模擬保育をする。			グループ
7	領域「環境」のねらいを達成する保育実践	実践例を通してねらいと内容を達成するための環境構成や活動の展開について考える。			個人
8	小学校教育との連続性と「環境」に関わる保育の課題	小学校教育との連続性や環境問題について考える。			個人
9	身近な地域、さまざまな文化との関わりの実践	日々の保育からつながる地域の人とのかかわりについて理解する。			個人
10	行事とのかかわりの実践	保育における行事の意義や留意点について理解する。			グループ
11	自然とのかかわりの実践	多様な遊びや活動が広がる植物とのかかわりや、生命の尊さに気づき、生き物をいたわり大切にするかかわりを理解する。			グループ
12	数量・図形とのかかわりの実践	子どもの生活、子どもの遊び、子どもの発達と数量・図形について理解する。			グループ
13	標識・文字とのかかわりの実践	子どもの必要性に基づく標識・文字について理解する。			グループ
14	保育内容・領域「環境」の展開①	乳児保育の「3つの視点の展開」について理解する。			個人
15	保育内容・領域「環境」の展開②	未満児・以上児の領域における「環境の展開」について理解する。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 受講態度 10%	課題の達成度	30%
【教科書】	実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法(わかば社) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		日頃から、季節の移り変わりや、地域の行事に興味関心を持ちましょう。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子どもの生活と遊び(表現と運動) ※実務経験のある教員の授業科目		1) 田母神知加子・小松未来			田母神
		1) 保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
運動遊びと子どもの成長と子どもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面が子どもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し、具体的な援助方法を習得する。同時に、子どもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①子どもが主体的に曾比に取り組める援助方法を習得する。 ②演習で取り扱う運動あそびと成長発達との関係を理解する。 ③運動遊びと運動機能・体力の関係を理解する。 ④創作活動を通してチームの中で互いに協力し、コミュニケーション技術を習得する。 ⑤楽しく安全に遊べる環境づくりを学ぶ。				遊びの展開技術 コミュニケーション技術 チームで働く力	
【履修上の注意】運動着・シューズの着用と水分補給のための飲料を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション		学習内容を理解する。幼児期の運動遊びの体験の振り返りをする。		グループ
2	自然を素材とする遊びや戸外での遊び 固定遊具を使った遊び		自然を素材とする遊びの知識と技術を把握する。固定遊具の遊びの種類と遊び方について子どもの成長発達に与える内容を理解する。		グループ
3	遊具(操作性遊具)を使った遊びⅠ (様々なボール遊び)		ボールを使用した遊びの種類や、楽しく安全に協力して遊びを支援する方法を学び、遊びの技術を習得する。安全性の配慮を学ぶ。		グループ
4	遊具を使った遊びⅡ (フープ、輪、ロープ、新聞紙、タオルなど)		転がす、回す、投げる、くぐるなどの技術を習得する。また、これらの運動遊びで調整力が育まれることやゲーム性を取り入れることで競争意識や社会性が形成されることを理解する。		グループ
5	大型遊具を使った遊具 (マット、跳び箱、平均台など)		多様な運動を展開することで子どもの運動への興味関心を高め、柔軟性、協応性、巧緻性などが育まれることを理解する。安全性の配慮を学ぶ。		グループ
6	サーキット遊び		遊具を組み合わせることで創造性を養うことができることや、相手への思いやりの心や社会性が育まれることを理解する。安全性の配慮を学ぶ。		グループ
7	身体表現による伝承遊び① (お手玉、おはじき、ビー玉、あやとり、けん玉、コマ回し)		伝承遊びをととして、左右の手や指を使うことで脳の発達に効果的であることや、集中する力が養成されることを理解する。		グループ
8	身体表現による伝承遊び② (鬼ごっこ、ケンケンパー、縄跳び、ゴム遊び、まりつき)		伝承遊びをととして、子どもの思考力や役割意識・規範意識が養われることを理解する。		グループ
9	ストレッチ体操・縄跳び 幼児体操①		子どもの発達を考えた運動遊びと幼児体操を覚える。		グループ
10	ストレッチ体操・縄跳び 幼児体操②		子どもの発達を考えた運動遊びと幼児体操を覚える。		グループ
11	ストレッチ体操・縄跳び 幼児ダンス①		体を動かす楽しさを感じるリズムダンスを覚える。		グループ
12	ストレッチ体操・縄跳び 幼児ダンス②		体を動かす楽しさを感じるリズムダンスを覚える。		グループ
13	ストレッチ体操・縄跳び 創作ダンス①		曲のイメージに合わせた幼児向けダンスを創作する。		グループ
14	ストレッチ体操・縄跳び 創作ダンス②		曲のイメージに合わせた幼児向けダンスを創作する。		グループ
15	ストレッチ体操・縄跳び 創作ダンス発表会		完成した創作ダンスを発表する。		グループ
期末試験	縄跳びの回数記録・実技の到達度確認 ノート(レポート)の作成を総合評価		評価方法	課題の達成度 40% 授業への貢献 30%	受講態度 30%
【教科書】	教科書は使用しないが、必要に応じて資料を配付する。				
【参考書】	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	幼児体操や幼児ダンスは、反復練習をしっかりと行いましょう。				
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子どもの生活と遊び(音楽とリズム) I		熊田 桂子			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
子どもの音楽表現を豊かな活動へと展開するために必要な音楽の基本的知識と技術を身につける。そのために、音楽基礎理論、声楽、鍵盤楽器の基礎的な技能を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①音楽を構成する要素の基礎知識を身につける。 ②保育に必要な楽曲の楽譜を読むために必要な知識を身につける。 ③季節や生活に関わる歌やわらべ歌を覚え、歌えるようにする。 ④保育に関わるわらべ歌の簡単なピアノ伴奏を弾けるようにする。				前に踏み出す力 遊びの展開技術	
【履修上の注意】実技の練習をできる限り毎日するようにしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション		授業内容、目的、授業の進め方について理解する。自分に必要な音楽活動に関わる知識や技術について理解する。		個人
2	音楽の基礎 生活のうた		楽譜の譜表と音名について理解する。歌う時の姿勢と発声の仕方について理解する。ピアノを弾くときの姿勢と鍵盤の位置について学ぶ。		個人
3	10月のうた①		音符と休符について理解する。10月のうたを歌う。ピアノの基礎練習と簡単な子どもの歌一曲を練習する。		個人
4	10月のうた②		拍子とリズムについて学び、リズムを読めるようにする。10月のうたを歌う。ピアノを両手で弾く。		個人
5	11月のうた①		拍を体で感じながら、リズム打ちをできるようにする。輪唱と11月のうたを歌う。簡単な伴奏でピアノを弾く練習をする。		個人
6	11月のうた②		音名、変化記号について理解する。11月のうたを歌う。課題の曲をピアノで弾けるように練習する。		個人
7	12月のうた①		コードネームの仕組みについて理解する。ピアノ伴奏をコードネームで弾いてみる。12月のうたを歌う。		個人
8	12月のうた②		コードネームを見て、簡単な和音を弾けるようにする。12月のうたを歌う。手遊びうたを歌う。		個人
9	1月のうた①		コードネームを見て、いろいろな伴奏のパターンを練習する。1月のうたを歌う。振付をつけたうたを歌う。		個人
10	1月のうた②		和音の構成と主要三和音について学ぶ。1月のうたを歌う。簡単なわらべ歌に簡易楽器演奏をつける。		グループ
11	2がつのうた①		楽譜に関わる様々な記号や用語について学ぶ。2月のうたを歌う。簡単な子どもの歌に簡易楽器演奏をつける。		グループ
12	2がつのうた②		楽譜に関わる様々な記号や用語について学ぶ。2月のうたを歌う。子どもの曲をピアノで練習する。		個人
13	3月のうた①		いろいろなリズムを理解する。3月のうたを歌う。実技発表に向けて練習する。		個人
14	3月のうた②		3月のうたを歌う。実技発表に向けて課題曲を練習する。		個人
15	課題練習		実技発表に向けて練習する。		個人
期末試験	筆記試験 実技(ピアノ)試験		評価方法	受講態度 10% 小テスト 10%	筆記試験 40% 実技試験 40%
【教科書】		幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ジュニアクラスの楽典 テキスト・ワーク(デブロMP)			
【参考書】		いろいろな伴奏で弾ける選曲 こどものうた100(チャイルド社)			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		ピアノの練習を少しでもできるだけ毎日すること。楽典のテキスト・ワークの授業で行った内容を進めておくこと。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡 kumachan@v2.dion.ne.jp	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子どもの生活と遊び(感性と創造)		大城 泰造			勝見
		一般			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
保育内容を理解し、子どもの感性と創造力を豊かにするための必要な基本的知識と技術を習得する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験を通して、様々な用具、素材や教材に触れ、保育環境の構成や子どもの感性と創造を育む表現活動に関する保育技術を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育の内容を理解し、子どもの遊びを通して感性と想像力を豊かにするための必要な知識や技術を習得する。 ②造形表現活動に関する知識や技術を習得する。 ③表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を身につける。 ④ケースを詳細に分析・検討し、問題解決の過程や方法を見つけることができるようになる。 ⑤理論的根拠等を相互に探求し合い、PDCA型学習を実践できるようになる。				遊びの展開技術 コミュニケーション技術 環境構成技術 チームで働く力	
【履修上の注意】受講人数等のやむをえない事情により、シラバスの内容を一部修正する可能性があります。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	ガイダンス	保育における遊びの役割 保育における感性と創造の重要性を理解し、全体の学びの方法論を習得する。			個人
2	遊びの表現トレーニング(アナログ画)	表現方法(デジタル画とアナログ画)自由な表現とは何かを理解し、オイルパステルの使用方法を習得する。			個人
3	遊びの表現トレーニング (五感のアナログ画)	自由な抽象表現 目に見えないものを表現することにより抽象表現を理解する。			個人
4	遊びの表現トレーニング(ネガポジ画・手)	純粋輪郭画・修正輪郭画・ネガポジ画 創造力を育む上で必要となる発想法や視点の変換の方法を理解する。			個人
5	遊びの表現トレーニング(ネガポジ画・人参)	ネガポジ画・画面構成法・教材活用 モチーフ観察の方法論を理解し、多様な画材を用いた表現方法を習得する。			個人
6	遊びの表現トレーニング(量感画・クロッキー)	表現方法(クロッキーと量感画)ものの形の捉え方や表現方法を理解し、スクイグルやクロッキーを通して理解できる。			個人
7	遊びの表現トレーニング(量感画・りんご)	表現方法(量感画)・教材活用 五感を使った表現方法を理解し、量感画法を習得する。			個人
8	アートコミュニケーション(鑑賞して相手に伝える)	コミュニケーションスキル(言語的コミュニケーション)作品鑑賞を通じた感想表現によって、コミュニケーションスキルを習得する。			グループ
9	アートコミュニケーション(二人で描く)	コミュニケーションスキル(非言語的コミュニケーション)共同制作における表現によって非言語コミュニケーションスキルを理解し習得する。			グループ
10	遊びと創造表現グループワーク①	遊び計画案・グループワークⅠ 遊び計画における作業グループの構成と役割設定を行う。			グループ
11	遊びと創造表現グループワーク②	遊び計画案・グループワークⅡ 関連資料や発達と遊びについてこれまでの学習を基にした意見を出し合い、相互学習及び検証を行う。			グループ
12	遊びと創造表現グループワーク③	遊び計画案・エバリュエーション-Aグループ 相互評価を行う。計画案を発表し、学生相互及び教員との質疑応答を行う。			グループ
13	遊びと創造表現プレゼンテーション①	遊び計画案・プレゼンテーション-実施 ロールプレイング形式のプレゼンテーションを行う。			グループ
14	遊びと創造表現プレゼンテーション②	遊び計画案・プレゼンテーション-実施 ロールプレイング形式のプレゼンテーションを行う。			グループ
15	総括(遊びのシェア)	遊び計画案・プレゼンテーション-学びのシェア これまでの総括を行い、意見交換や協議などにおいて学びのシェアを行う。			グループ
期末試験		評価方法	課題の達成度 70%	受講態度 30%	
【教科書】	講義内で必要なコピーを配布します。				
【参考書】	講義内で必要なコピーを配布します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		ロールプレイングではグループによる事前打ち合わせ、参考作品製作、プレゼンのリハーサル、反省会など予習復習すること。			
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	メール連絡		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子どもの生活と遊び(言葉と児童文化財) ※実務経験のある教員の授業科目		1)鈴木 恵夏・鈴木 佳代子			鈴木(恵)
		1)保育園(保育士)5年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
昔から受け継がれている遊びや、絵本、紙芝居など様々な児童文化財に触れ、実践を通して保育技術を習得する。また、児童文化財と子どもの育ちとの関わりについて考え、保育者の役割を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 子どもの発達と児童文化財の知識や保育技術を身に付けることができる。 ② 児童文化財に親しみ保育環境を考えることができる。 ③ 保育教材を製作し、保育の展開について理解する。 ④ 保育に活かせる遊びを身に付けることができる。				発達援助技術 前に踏み出す力 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】授業で使用するものを事前にお知らせいたしますので、忘れものがないように気を付けてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	授業内容、目的、授業の進め方について理解する。			個人
2	保育と言語表現	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の中の言語表現を理解する。			個人
3	保育現場における「言語表現」活動	ことばと表現力を育む児童文化財について理解する。			個人
4	児童文化財と言語活動1	絵本・素話・紙芝居の特色について理解する。			個人
5	児童文化財と言語活動2 こどもの発達と児童文化財、保育への発展	ことばあそび・わらべ歌の特色を理解する。 シアタースタイルの児童文化財の特色について理解する。 こどもの発達と児童文化財と保育への展開について理解する。			個人
6	演習1 児童文化財の製作①	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサート等の教材を作成する。			個人
7	演習2 児童文化財の発表・グループワーク	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサート等の活用と模擬保育の実践を学ぶ。			グループ
8	演習3 児童文化財の発表・グループワーク	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサート等の模擬保育と評価方法を理解する。			グループ
9	児童文化財 ①絵本	絵本の特色を振り返り、理解を深める。 読み聞かせの技術を身につける。			グループ
10	児童文化財 ②紙芝居	紙芝居の特色を振り返り、理解を深める。 演じ方の技術を身につける。			グループ
11	児童文化財 ③ことばあそび	ことばあそびの特色を振り返り、理解を深める。			グループ
12	児童文化財 ④わらべ歌	わらべ歌の特色を振り返り、理解を深める。			グループ
13	児童文化財 ⑤シアタースタイルの児童文化財	シアタースタイルの児童文化財の特色を振り返り、理解を深める。			グループ
14	演習4 児童文化財の製作②	ペープサートやパネルシアター、人形劇等の教材を作成する。			グループ
15	演習5 指導案の立案・模擬保育の実践	作成した児童文化財を活用した指導計画案の立案と模擬保育の実践をする。			グループ
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 受講態度	60% 20%	課題の達成度 20%
【教科書】	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【参考書】	0～5歳児の手あそび・うたあそび(ナツメ社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】絵本や紙芝居など、沢山の児童文化財に触れてください。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
乳児保育Ⅰ ※ 実務経験のある教員の授業科目		1) 渡邊 佐江子・矢吹ヒロ子			渡邊
		1) 保育園(保育士)16年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
乳児保育の意義・概念と現状、乳児保育の基本的な知識について学ぶ。人として人格形成の基礎を培う重要な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者との連携や子育て支援について総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①乳児期の意義、目的、役割と背景や歴史の変遷を理解する。 ②多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について学び、知識を得る。 ③3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育の内容と保健・衛生・安全管理について理解する。 ④乳児保育における職員間・保護者や地域の関係機関との連携・協働について理解する。 ⑤乳児保育における保育の計画・記録・評価について理解する。				発達援助技術 生活援助技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】自分の考えを積極的に発言したり、意見を聞いたりして考えることを大切にしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	講義概要と学習目標、成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。乳児保育の基本について理解する。			個人
2	乳児保育の意義・目的と役割 乳児保育における養護と教育	乳児保育の役割と機能を理解する。 養護と教育の一体性について理解する。			個人
3	乳児保育の歴史の変遷および社会的状況と課題	乳児保育の背景や歴史の変遷について知る。 子育ての家庭の現状と課題について理解する。			個人
4	保育所における乳児保育	保育所、認定こども園における乳児保育について理解する。			個人
5	保育所以外(乳児院)における乳児保育	乳児院における乳児保育について理解する。			個人
6	地域型保育等における乳児保育	地域型保育事業について理解する。			個人
7	3歳未満児の保育における保健・衛生・安全管理	3歳未満児の保健・衛生・安全管理を考慮した生活と環境について学ぶ。			個人
8	3歳未満児の遊びの環境	3歳未満児の発達・発育を踏まえた遊びと環境について学ぶ。			個人
9	3歳以上児の保育への移行	3歳以上児の保育に移行する時期の保育について学ぶ。			グループ
10	3歳未満児の保育における保育者の援助や配慮	3歳未満児の保育における保育者の援助や配慮を学ぶ。			グループ
11	乳児保育における計画①	保育計画の必要性を理解する。			個人
12	乳児保育における計画②	保育計画に基づく保育実践・省察・評価について理解する。 保育におけるPDCAサイクルを理解する。			個人
13	職員間の連携・協働	職員間の連携・協働について理解する。 他職種との連携について知る。			個人
14	保護者との連携・協働	保護者との連携・協働について理解する。			個人
15	自治体や地域との連携・協働	地域との連携・協働について理解する。 保育者の専門性、倫理観について理解する。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 課題の達成度 20%	受講態度 20%	
【教科書】	ワークで学ぶ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ(みらい)				
【参考書】	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義の予習(教科書の該当ページを一読)や課題に意欲的取り組んでいきましょう。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
乳児保育Ⅱ ※ 実務経験のある教員の授業科目		1) 渡邊 佐江子・矢吹ヒロ子			渡邊
		1) 保育園(保育士)16年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
乳児保育Ⅰで学んだ乳児保育の基本や養護と教育について、演習を通して理解する。 乳児期の発達を踏まえた生活と遊びの援助、健康・安全への保育者の配慮を演習しながら習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①3歳未満児の発育・発達過程や特性をふまえ、実践的な援助や関わり方を習得する。 ②3歳未満児の発達を踏まえながら子どもの興味・関心、発達を促すおもちゃを考案・制作・発表・評価する。 ③指導案を理解し、映像から乳児保育の実際を具体的に学び、実践力を養う。 ④乳児の健康・安全管理を踏まえた保育の実際を理解し、実践的な保育力を養う。 ⑤乳児保育における様々な連携を理解する。				発達援助技術 生活援助技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】 演習やグループ学習が多いので、意欲的に参加してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	講義概要と学習目標について理解する。 養護と教育の一体性を事例から具体的に理解する。			個人
2	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	子どもの主体性を尊重した保育を事例から考える。 子どもの体験と学びの芽生えの関係性を理解する。			個人
3	個々の子どもに応じた援助、関わり	個々の子どもに応じた援助について理解する。 受容的・応答的関わりを事例から考える。			個人
4	0歳児の保育における生活の援助①	0歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際を学ぶ。			個人
5	0歳児の保育における生活の援助②	0歳児の発育・発達を踏まえた生活の援助を演習し習得する。			グループ
6	1・2歳児の保育における生活の援助①	1・2歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際を学ぶ。			個人
7	1・2歳児の保育における生活の援助②	1・2歳児の発育・発達を踏まえた生活の援助を演習し習得する。			グループ
8	3歳未満児の保育における遊びの援助① (手作りおもちゃの考案・制作)	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際を学ぶ。			グループ
9	3歳未満児の保育における遊びの援助② (手作りおもちゃの制作)	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際を学ぶ。			グループ
10	3歳未満児の保育における遊びの援助③ (手作りおもちゃの発表・評価)	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際を学ぶ。			グループ
11	乳児の保育計画のあり方	個別指導計画の書き方について理解する。			個人
12	集団生活における配慮	集団生活における全体的な配慮および個別的な配慮の理解を深める。			個人
13	乳児保育における具体的な連携	職員間、保護者、地域との連携の重要性を理解する。 園だより・クラスだよりの作成を実践する。			個人
14	乳児保育における具体的な連携	保護者との連携について具体的に理解する。 連絡帳の記入の仕方を実践する。			個人
15	乳児保育における具体的な連携	作成したクラスだよりを発表し、保育者としての情報発信の意味を理解する。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 課題の達成度 20%	受講態度 20%	
【教科書】	ワークで学ぶ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ(みらい) 必要に応じて資料を配布				
【参考書】	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】		講義の予習や課題に意欲的に取り組んでいきましょう。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習指導Ⅰ(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		小坂・1)勝見・田母神・渡邊・矢吹・鈴木			勝見
		1)保育園(保育士)18年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)9年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
保育実習の意義や目的を理解し、事前指導、事後指導を通して、保育士としての自らの課題を明確にしていく。また、実習をする際に必要である、マナーやプライバシーの保護、守秘義務等について理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育実習の意義・目的・内容を理解することが出来る。 ②実習における留意点を理解することが出来る。 ③実習の計画・実践・観察・記録の方法について具体的に理解することが出来る。 ④実習事後指導を通して、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				発達援助技術 前に踏み出す力 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】この科目が不合格の場合は、保育実習に参加することが出来なくなるため十分に注意すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション・保育実習の目的と概要 小坂・勝見	講義内容や履修上の注意点を理解する。保育士の資格を理解する。			個人
2	保育実習の目的と概要 小坂	保育の専門家としての知識と問題について理解する。			個人
3	福祉職としての保育士 小坂	子どもの権利条約や全国保育士会倫理綱領について理解する。			個人
4	保育所の役割と機能 渡邊	保育所の生活と一日の流れやデイリープログラムを理解する。			個人
5	保育所の役割と機能 勝見	保育所保育指針(総則)について理解する。			個人
6	保育所における子ども理解(調べ学習)① 矢吹	乳幼児期の子どもの生活について調べる。			グループ
7	保育所における子ども理解(調べ学習)② 矢吹	乳幼児期の子どもの生活について調べる。			グループ
8	保育所における子ども理解(調べ学習)① 鈴木	乳幼児期の子どもの遊びについて調べる。			グループ
9	保育所における子どもの理解(調べ学習)② 鈴木	乳幼児期の子どもの遊びについて調べる。			グループ
10	保育実習の心構えと準備 田母神	実習の進め方や求められるマナーについて知る。			個人
11	保育環境と安全① 矢吹	子どもが安心して過ごすことができる環境について理解する。			個人
12	保育環境の安全② 渡邊	保育現場での危機管理や事故防止について知る。			グループ
13	実習課題 勝見	実習課題の立て、それを遂行するための方法を考える。			グループ
14	保育体験学習 矢吹・鈴木	附属保育園・附属放課後等デイサービスの体験を通して子ども理解を深める。			個人
15	保育体験学習振り返り 渡邊	保育体験学習を振り返り、自己課題を明確化する。			個人
期末試験	実技試験	評価方法	課題の達成度 30% 受講態度 30%	実技試験 40%	
【教科書】	実習の手引き・福島県保育実習施設(福島県保育者養成連絡会) フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画(萌林書林) 保育所保育指針解説(フレーベル館) 学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林)				
【参考書】	0～5歳児の手あそび・うたあそび(ナツメ社) 子どもの歌でいつのまにか上達する 保育者になるためのピアノ教本(エイデル研究所)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業で学習した手遊びの復習、保育教材の製作をしておきましょう。					
【本講義についての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習指導 I (2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		小坂・1)勝見・田母神・渡邊・矢吹・鈴木			勝見
		1) 保育園(保育士)18年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)9年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
保育実習の意義や目的を理解し、事前指導、事後指導を通して、保育士としての自らの課題を明確にしていく。また、実習をする際に必要である、マナーやプライバシーの保護、守秘義務等について理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育実習の意義・目的・内容を理解することが出来る。 ②実習における留意点を理解することが出来る。 ③実習の計画・実践・観察・記録の方法について具体的に理解することが出来る。 ④実習事後指導を通して、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				発達援助技術 前に踏み出す力 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】この科目が不合格の場合は、保育実習に参加することが出来なくなるため十分に注意すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	夏休み体験学習の事後指導 矢吹・鈴木		保育所体験学習を振り返り、保育士の仕事や子どもの援助について理解を深める。		個人
2	施設実習の理解① 小坂		児童養護施設のDVDを観て、感想及び疑問点についてのレポート作成し提出する。		個人
3	施設実習の理解② 小坂		知的障害児施設のDVDを観て、感想及び疑問点についてのレポート作成し提出する。		個人
4	施設実習の理解③ 小坂		乳児院のDVDを観て、感想及び疑問点についてのレポート作成し提出する。		個人
5	施設実習の理解④ 小坂		重症心身障害児施設のDVDを観て、感想及び疑問点についてのレポート作成し提出する。		個人
6	施設実習の理解⑤ 小坂		DVDで観た施設に対する感想、疑問への回答を通して施設と施設実習への理解を深める。		グループ
7	施設実習の理解⑥ 小坂		DVDで観た施設に対する感想、疑問への回答を通して施設と施設実習への理解を深める。		グループ
8	保育所における計画案① 渡邊		保育現場の計画について知る。		個人
9	保育所における計画案② 田母神		実習生が作成する指導計画の意義について知る。		個人
10	保育実習の記録① 田母神		実習日誌について理解する。		グループ
11	保育実習の記録② 田母神		実習日誌を実際に書いてみる。		個人
12	附属保育園体験学習 矢吹・鈴木		保育園の一日の生活の流れを理解する。		個人
13	附属保育園体験学習事後指導 矢吹・鈴木		体験学習を振り返り、記録の書き方を理解する。		個人
14	実習直前指導 勝見		実習の目標と抱負を明確にし、事前オリエンテーションの内容の確認をする。		個人
15	実習事後指導 小坂		自己評価と実習先評価を照らし合わせ、今後に向けた課題を明確化し、自己課題を理解する。		個人
期末試験	実技試験		評価方法	課題の達成度 30% 受講態度 30%	実技試験 40%
【教科書】	実習の手引き・福島県保育実習施設(福島県保育者養成連絡会) フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画(萌林書林) 保育所保育指針解説(フレーベル館) 学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林)				
【参考書】	0~5歳児の手あそび・うたあそび(ナツメ社) 子どもの歌でいつのまにか上達する 保育者になるためのピアノ教本(エイデル研究所)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	